

長岡京市障がい者基本条例（仮称）づくりのための
「市民ワークショップ」開催報告



1. 開催概要

【日 時】平成28年10月30日（日）13:30～16:00

【場 所】長岡京市立図書館大会議室

【参加者】34名（うち、障がいのある人 11人）

2. 内容

(1) 『障害者差別解消法』についての説明

(2) ワークショップ（※7グループで意見交換し、テーマ毎にメンバー入替え）

テーマ①：「“障がいがある”ってどういうこと？」

テーマ②：「私たちの身近にはどんなバリアがありますか？」

テーマ③：「障がいのある人もない人も、自分らしく暮らせるまちにするためにできること」とは？

(3) 意見発表

3. ワークショップ意見から

★テーマ①：「“障がいがある”ってどういうこと？」

- ・障がいのある人を「かわいそう」と思ってしまう。
- ・どうサポートしたらいいのかわからない。
- ・身近に障がいのある人がいて、普段から接していると考えられる。
- ・みんなが普通に行ける場所に行けない。
- ・周囲に障がいを理解してほしいが、その伝え方がわからない。
- ・障がいのある人にどう接したらいいのとまどう。
- ・同じ障がいでも一人一人違いがある。

★テーマ②： 「私たちの身近にはどんなバリアがありますか？」

- 災害、救急などの緊急時のコミュニケーションが不安。
- 駅の合理化による人手不足、車内放送の配慮が不足。
- 観光地のバリアフリー化が不十分。
- 外出時の身障用トイレやエレベータが不足している。
- 近所の同じ年齢の子どもと同じ学校へ行けない。
- 目に見えない障がい特性のため理解が得にくい。
- 文化、スポーツ、出会いの場に制約がある。
- 地域交流に難しさがある。
- 住まい探しが難しい。
- 道路、歩道の通行がしにくい。
- 病院、銀行での配慮の不足している。
- お店に入りにくい。
- 手話のできる人が少ない。

★テーマ③： 「障がいのある人もない人も、自分らしく暮らせるまちにするためにできること」とは？

テーマ③を通じて導き出された共有された条例の方向性

○知り合うための機会づくり

- 障がいのある人とない人が接する場をもっと増やす。
- 交流の場、外出先を増やす。
- 障がいのある人が自ら発信する。
- 障がいのこと、もっと学校や親子で話そう。
- ワークショップのような場を継続する。

○どんなまちにしたい？

- 心のバリアのないまちにしたい。
- 声をかけ合えるまちにしたい。
- コミュニケーションのとれるまちにしたい。
- 安心して暮らせるまちにしたい。
- 障がいのある人とない人の交流ができているまちにしたい。

